

世に伝えたいと、現状を憂慮していた有志らと平成29年4月に協議を始め、市民に分かりやすく親しみやすいミニパークとして保存、整備することにしました。また、次世代を担う子どもたちに細呂木地区の歴史を知ってもらうため、実際の遺跡の前で製鉄実習を行いたいと考えました。そこから、木々の伐採といった清

ただけるよう頑張っています。

完成までの道のり
細呂木製鉄遺跡は、昭和45年に実施されたフィールド調査で6力所の遺構が確認されました。しかし、平成10年の確認調査では、北側2力所の遺構は確認できず、残り4力所の遺構は、調査時に清掃作業が行われましたが、その後は風雨による浸食が進み、早急な保存措置が必要な状況でした。



たたら製鉄遺跡保存会事務局
たけうち 直博 さん

関係者に聞きました
たたら製鉄遺跡ミニパークの完成に尽力された保存会事務局長の竹内さんに、完成までの道のりや今後の展望について伺いました。

これからが本番
細呂木製鉄遺跡ミニパークの完成は、大変感慨深いものではありませんが、今はやっと出発地点にたどり着いたのだと感じています。これからは年2回のペースで、市内の小学生を対象に製鉄実習を実施していきます。実習を通して、子どもたちに細呂木地区の歴史を知ってもらい、次世代に伝えていければと思います。

掃作業にはじまり、遺跡の確認作業や保存工事、広場の造成工事、レプリカ製作などを、関係団体の協力や有志たちのボランティアにより進めてきました。完成までには大きな障害がいくつもあり、何度も完成が危ぶまれましたが、その都度関係者の協力により、何とか乗り切ることができました。やはり、地域の人たちのまちづくりに対する熱い思いが、完成にこぎ着ける原動力になったのだと思います。

細呂木製鉄遺跡の場所



場所に関する問合せ
たたら製鉄遺跡保存会事務局
(細呂木公民館内) ☎ 73-2151

たたら製鉄でまちおこし



① 製鉄実習を見学する人たち、② 完成式典テープカット、③ 縦型製鉄炉の原寸大レプリカ、④ 細呂木製鉄遺跡

たたら製鉄遺跡ミニパークが完成

10月7日(月)に、あわら市指定文化財「細呂木製鉄遺跡」の保存施設とミニパークの完成式典が開催されました。式典は、地元有志からなる「たたら製鉄遺跡保存会」が企画し、地権者の打本幸雄福井鋸螺株式会社代表取締役社長CEOや佐々木市長らを招いて実施。同保存会の藤川龍七会長が「細呂木地区の歴史的な遺産を伝承しながら、観光拠点の一つとして活用し、地域間の交流を進めていきたい」とあいさつし、テープカットを行いました。式典後には、完成披露イベントとして、地元の細呂木小学校5年生が、製鉄実習に取り組みしました。同じく地元の細呂木こども園の園児も見守る中、児童たちは、たたら製鉄遺跡保存会のメンバーと一緒に、燃え盛る炉に砂鉄と木炭を投入。これを繰り返すことで炉の中で作られた鉄の固まりが取り出されると、見学していた人々から、感嘆の声が上がっていました。

たたら製鉄保存会とは

「たたら製鉄保存会」は、平成29年4月に地元有志らで協議を開始し、同年11月にNPO法人加越たたら研究会や福井鋸螺株式会社などを招いて正式に発足。以後、たたら製鉄遺跡の価値の保存や活用について協議を重ねてきました。平成30年1月12日に、「細呂木製鉄遺跡」という名称であわら市指定文化財(史跡)の指定を受けると、市の補助事業として、崖の崩壊を防ぐ遺跡下部の土盛りや風雨を防ぐ上屋の建設などの保存工事を実施。近隣で実際に発掘された縦型製鉄炉の原寸大のレプリカや、子どもたちが製鉄実習を体験するための説明看板も設置しました。

あわら市指定文化財(史跡) 細呂木製鉄遺跡(平成30年1月12日指定)
古代において鉄は大変貴重なもので、鉄製品は権力の象徴ともいわれていました。さらに、鉄を生産するには高度な技術が必要で、越前国の中では、あわら市域でだけ古代製鉄遺跡が複数見つかっています。その中でも細呂木製鉄遺跡は、唯一遺構(現存4基)が確認できる大変貴重な遺跡です。古いものは9世紀ごろに使用されていたと推測されます。また、「金津」という地名は、「金」は鉄を、「津」は河港を表すといわれており、細呂木地区で生産された鉄製品が、河川を利用して搬出されていたと推測されることが由来ともいわれています。

鉄の作り方

炉の模型も手作り



小さい炉の模型を使い、送風機で空気を送り燃焼温度を上げ、砂鉄と木炭から鉄を作ります。

- ① 砂鉄を入れる前に炉の中で炭を燃やし、炉内の温度を上げます。
- ② 炉内の温度が上がったら、空気を送り込みながら、砂鉄(200g)と木炭(300g)を交互に入ると、砂鉄は炉の中で鉄に変わります。入れた砂鉄と木炭が減ったら、同じ量の砂鉄と木炭を追加し、これを繰り返します。
- ③ 1時間ほど繰り返すと、炉の底に鉄とノロ(鉄のカス)がたまりまます。時々ノロを流し出し、鉄が大きくなるのを待ちます。
- ④ 鉄が大きくなったところに、空気を送るのをやめ、上の炉から順番に外し、最後に下の炉を倒して鉄を取り出し、水の中に入れて冷やします。
- ⑤ できた鉄の固まりは、ケラ(鋸)といひます。一緒にできた小さな鉄の粒も金づちで叩いて、鉄とノロに磁石で分けます。



細呂木製鉄遺跡説明看板「古代製鉄を体験しよう」より